



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 8 月 1 4 日 (木)

発行 館長 加 藤 智 一

最近の農業を取り巻く「地球温暖化」への適応策 その一例

(1) 乾田直播

米の「乾田直播（かんでんちょくは）」とは、水田を乾かした状態で種籾を直接播種する栽培方法であり、従来の田植え方式とは異なる技術的アプローチを取る農法です。近年、農業の省力化や持続可能性が求められる中で、この「乾田直播」が注目されているといえます。そして令和 27 年度に国が補助金を出す方針を示したことは、農業政策の転換点とも言えるでしょう。この方法は収量面で懸念があるにもかかわらず、なぜ国はこの技術を推進しようとしているのでしょうか？その背景には、農業の構造的課題、環境的要請、そして技術革新への期待が複雑に絡み合っているようです。

まず、「乾田直播」の最大の利点は「省力化」です。従来の田植え方式では、苗の育成、田植え機による移植、水管理など多くの工程が必要であり、特に高齢化が進む農村地域ではこれらの作業が大きな負担となっています。「乾田直播」では、苗を育てる必要がなく、播種機によって直接種籾を播くことで作業工程を大幅に削減できます。これにより、労働力不足が深刻な地域でも米作りが継続可能となり、担い手の確保や農地の維持に貢献することが期待できます。

また、コスト面でも「乾田直播」は優位性を持っています。苗の育成にかかる資材費や労働費が不要となるため、全体的な生産コストを抑えることができるのです。特に規模拡大を目指す農業法人や若手農業者にとっては、初期投資を抑えながら効率的な経営が可能となる点は魅力です。国が補助金を出すことで、こうした新規参入者や技術転換を図る農家への後押しとなり、農業の持続性を高める狙いがあると思われます。

一方で、収量の不安定さは「乾田直播」の課題としてしばしば指摘されています。特に発芽率のばらつきや雑草の繁茂、初期生育の遅れなどが収量低下の要因となります。しかし、近年ではこれらの課題に対する技術的な対応も進んでいます。例えば、種子のコーティング技術や精密播種機の導入により、発芽率の向上や均一な生育が可能となってきました。また、除草剤の適切な使用や水管理技術の改善によって、雑草対策も一定の成果を上げています。国の補助金政策は、こうした技術革新を現場に普及させるためのインセンティブとして機能することでしょう。

う。

さらに、環境負荷の軽減という観点からも「乾田直播」は注目されています。従来の田植え方式では、水田を長期間湛水状態に保つ必要があり、メタンなどの温室効果ガスの排出が問題視されてきました。

「乾田直播」では、湛水期間が短縮されるため、温室効果ガスの排出量を抑えることができます。これは、国際的な気候変動対策の一環としても重要であり、農業分野における脱炭素化の推進に資する技術と位置づけられています。

また、地域の水資源管理という観点からも「乾田直播」は有効です。特に水不足が懸念される地域では、湛水期間の短縮や水使用量の削減が求められており、「乾田直播」はそのニーズに応える技術です。特に、近年水不足が問題となっている地域では、「乾田直播」の導入が水資源の有効活用につながる可能性があると思われます。

国が令和 27 年度に補助金を出す背景には、こうした多面的な利点を評価し、農業の構造改革を進める意図があります。単なる収量の多寡ではなく、持続可能性、省力化、環境負荷の低減、地域資源の活用といった広範な視点から農業技術を再評価する動きが加速しています。「乾田直播」はその象徴的な技術であり、補助金政策はその普及と定着を促すための重要な施策なのかもしれません。

もちろん、「乾田直播」の全面的な導入には慎重な検討が必要であり、地域の気候や土壌条件、農家の技術力などを踏まえた適切な対応が求められます。しかし、国が補助金を通じてこの技術を推進することは、農業の未来を見据えた戦略的な選択であり、収量という一面だけでは語りきれない価値がそこにはあります。なんちゃって !! 偉そうに語ってしまいました。

